

旧岡谷市役所庁舎保全のため
みなさまからの寄附を募集しています

旧岡谷市役所庁舎は、市制施行の昭和11年(1936年)から岡谷市のシンボルとして、その姿を残していますが、経年劣化が進行しており、外観のデザインを維持しながら長寿命化・安全確保により適正な保全のため財源を積み立てております。保全基金の寄付を募っていますので、ご協力をお願いします。

- ①ふるさと納税での寄附の場合
寄附金の使い道を「旧岡谷市役所庁舎保全基金」に指定してください。
- ②市役所窓口での寄附の場合
岡谷市役所企画課までお持ちください。
問合せ●企画課 (0266-23-4811 内線 1521)

平野村役場

廳舎新築工事設計書

加藤 三吉 氏
昭和十三年三月

旧岡谷市役所(平野村役場)の設計図 設計者の一人は県の営繕課職員の三吉繁實氏

旧岡谷市役所庁舎



旧岡谷市役所庁舎は、日本の近代化を支えたシルク岡谷の歴史を有形で現在に伝え、完成から今日まで岡谷市とともに歴史を刻んだ、まちの大切な財産です。



《年表》

- 昭和10年3月 長野県営繕課が庁舎の設計を行い
6月着工
- 昭和10年9月 平野村会協議会にて市制施行を可決 11月新市の名に「岡谷市」を選定し県へ上申書を提出
- 昭和11年3月 内務省告示 岡谷市制施行が決定 庁舎竣工 最後の平野村会が開催される
- 昭和11年4月 岡谷市制施行
- 昭和62年まで 岡谷市役所庁舎として使用
- 平成17年 国登録有形文化財に登録
- 平成19年 近代化産業遺産群に指定
- 平成27年まで 諏訪広域消防本部岡谷消防署として使用

《建物概要》

鉄筋コンクリート造2階建
延床面積：1545.85平方メートル
建築面積：792.15平方メートル



■近代化産業遺産群とは

日本の産業の近代化に貢献した建造物や機械などを経済産業省が認定する文化遺産のこと。我が国の産業近代化の過程を物語る存在として、各地に多くの建築物、機械、文書が継承されており、果たしてきた役割や先人たちの努力などを今に伝えている。



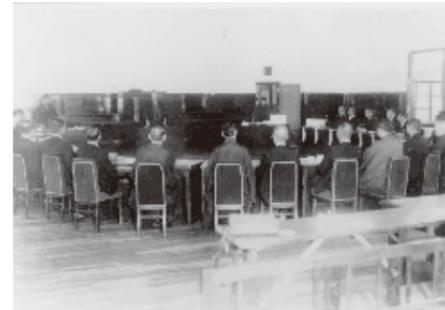
岡谷市役所発行政

岡谷市役所會議室

2階会議室（議場）



市制祝賀式



議会のようす



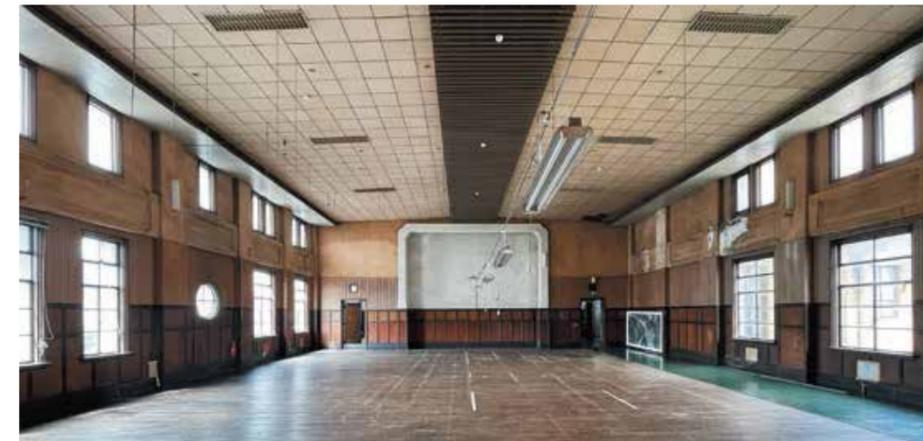
昭和36年頃：旧市役所前の蚕糸公園と街並み



2階貴賓室



1階事務室



現在の建物内部



■尾澤福太郎
 (おざわふくたろう・1860年～1937年)
 明治から昭和にかけて、製糸業にて成功した実業家。家業である尾澤組を株式会社化して社長に就任し、日本で有数の大規模な製糸事業を展開した。諏訪の六大製糸家のひとりと呼ばれる。岡谷市制が施行された際には、私財を投じて市庁舎を建設し、市に寄贈したことも知られている。

状況にありました。この行き詰まりの村政を転換し、製糸業の不振に苦しむ村民の心を奮い立たせ、多角的な工業都市として再出発するために、昭和8年以降、村会は本格的な市制施行への準備を進めました。施行のための必要条件のひとつに、庁舎の整備があり、当時の村長今井梧楼は製糸家尾澤福太郎氏に寄贈を要請、尾澤氏は一晩考えて翌日にこれを快諾したといわれています。こうして建てられたのが、旧岡谷市役所庁舎です。これによって庁舎が整い、昭和11年3月31日の新庁舎での平野村最終村会を経て、同年4月1日、晴れて平野村は岡谷市になりました。この貢献を讃え、庁舎横に尾澤福太郎氏の銅像が建てられています。

栄 華を極めた岡谷の製糸業ですが、昭和4年の世界恐慌による不況で、苦しい状況にありました。この行き詰まりの村政を転換し、製糸業の不振に苦しむ村民の心を奮い立たせ、多角的な工業都市として再出発するために、昭和8年以降、村会は本格的な市制施行への準備を進めました。施行のための必要条件のひとつに、庁舎の整備があり、当時の村長今井梧楼は製糸家尾澤福太郎氏に寄贈を要請、尾澤氏は一晩考えて翌日にこれを快諾したといわれています。こうして建てられたのが、旧岡谷市役所庁舎です。これによって庁舎が整い、昭和11年3月31日の新庁舎での平野村最終村会を経て、同年4月1日、晴れて平野村は岡谷市になりました。この貢献を讃え、庁舎横に尾澤福太郎氏の銅像が建てられています。

岡 谷にもその波は訪れ、明治8年、平野村の三代目武居代次郎氏は、安価で性能に優れた「諏訪式繰糸機（そうしき）」を発明して生糸の生産性を飛躍的に上げる土台をつくり、9人の発起人とともに低コストの機械製糸工場「中山社」を立ち上げました。その後、蚕の品種改良など、製糸家たちの努力もあり生産量が増した岡谷産の生糸は、徹底した品質管理により質が一定に保たれたことで「信州一番格（しんしゅうじょういちばんかく）」と格付けされました。品質、供給ともに安定した岡谷産のシルクは世界市場を制し、大正時代、シルク岡谷は全盛を迎えていくことになりました。

信 州は古くから生糸の産地で、江戸末期、岡谷地域の各村では、近江商人を介して「登せ糸（のぼせいと）」を京都の西陣へ送っていました。明治に入ると、政府は富国強兵をめざし、外貨獲得のために生糸の品質改善・生産向上を急ぎ、明治5年に官営の富岡製糸場をつくりました。その後、これを模範工場として、全国に機械製糸工場がつけられていきました。

なぜこの時代に建設できたのか

旧 岡谷市役所庁舎は、鉄筋コンクリート造二階建て、タイル貼りの外壁に洋がわら屋根のモダンな外観で、当時としては先進的な建物でした。しかし、建てられた当時は世界的な不況の時代。